

# 外部評価報告書

2019(令和元年)年 9 月

こども教育宝仙大学外部評価委員会

## 目次

- I. 委員長総括評価 . . . . . P 3
- II. 質疑応答および意見陳述 . . . . . P 4
- III. 外部評価委員会評価員名簿 . . . . . P 9
- IV. 外部評価委員会開催状況 . . . . . P 1 0

## I 委員長総括評価

委員長より外部評価委員で合議した評価について下記のとおり伝達された。

### <全体として>

- ・資料や質疑に適切な回答により、健全に運営されていると評価する。
- ・地域に密着し、自治体との連携もよくとられており、今日の大学のあり方を具現化させていると感じる。
- ・教育研究、経営も健全であり、スタッフも気持ちよく働いており、学生も気持ちよく学んでいることがわかる。

### <使命・目的等>

- ・小規模であることを利点としてきめ細やかな学生指導を行っており、しっかりとしたバックボーンをもち、仏教精神に則った教育という理念のもと、カラーのある主張のある教育をしていることを評価する。

### <学修と教授>

- ・就職率も良く学生の満足度も高く学生の評価も高いことを理解した。
- ・先ほど研究についての提言をおこなったが、四年制大学になってまだ10年と若い大学であり、まだまだこれから伸びしろのある大学であると思うので研究の分野でも頑張っていかれるものと期待している。

### <自己点検・評価>

- ・資料や質疑に適切な回答により、健全に運営されていると評価する。
- ・総合評価としては、指摘事項はなく、この自己点検評価の内容で良いと思う。今後ますます頑張ってくださいより良い大学にして欲しい。

## II 質疑応答および意見陳述

(田丸委員)

- ・高大連携についてどのように行なわれているのか現状を報告して欲しい。

(捧 募集・広報委員長)

- ・2018年度は学園内高等学校女子部保育コースの授業に大学教員が年間数回にわたりゲストスピーカーとして授業を担当した。
- ・2019年度より、高校保育コースの1～3年生の授業に本格的に協力している。また、本学教員と高校保育コースの教員との合同研修も開催している。

(根ヶ山委員長)

- ・資料（「学生による授業評価アンケート」）より、概ね学生は高評価をしているが、「授業の難易度は適切であったか」という設問に対する評価が低いのが気になった。この結果については学生からのメッセージとして無視できないことだと思うが、大学としてはどのように捉え、授業および教育、指導に活かしていくのか。

(石川学部長)

- ・FD委員長でありアンケート担当としてお答えする。
- ・当該結果を教員としてどのように捉えればいいのか、授業の難易度を易しすぎても不満は出てくるので、教員としてはいつもジレンマを感じている。
- ・極端に難しすぎるとの評価がある先生方には、授業の方針や改善の可能性等についてヒヤリングを行なっている。

(太田学長)

- ・この項目については「適切」という規準値が「0」であるため、他の質問項目と単純に比較してしまうと極端に低いように見えてしまう面がある。評価点の設定や表示方法に改善の余地があると思っている。

(根ヶ山委員長)

- ・難易度というのは、「難しいか、簡単か」だけではなく、「自分の関心興味とあっているか。」と関わる部分が多いのだと思う。
- ・入学してきた学生が、自分の思っていたのとは違うと感じてしまうと勉学への情熱や興味を失ってしまい、退学へ繋がってしまうものだと思う。
- ・学生募集に際して、受験生に大学の教育・研究について伝え、入学者のニーズを汲み取りながら大学の教育方針へ馴染ませていくという方策が必要であると思う。

(石原研究委員長)

- ・FD委員であり授業アンケート実務担当をしている。
- ・授業の難易度は適正であったか、という質問と学生の授業への満足度との関係性が重要だと思っている。
- ・アンケートの15番および16番の質問項目との関係性に注目している。すなわち難度が高くても当該授業への満足度があったとか興味を持ったという結果に導くことが大事であると思っている。

(根ヶ山委員長)

- ・大学というのは、研究と教育と地域貢献が求められているが、研究としてのアウトプットについて説明をして欲しい。

(林 前研究委員長・入試委員長)

- ・一例として科研費の取得状況について説明したい。
- ・2018年度は専任教員19名中3名が取得した。内1名は、「研究活動スタート支援」の助成を受けた。残り2名は「基盤研究B」および「挑戦的研究」の研究分担者として研究を進めた。

(根ヶ山委員長)

- ・「こども教育研究センター」がこども教育宝仙大学の特色であることは高く評価しているが、ぜひ研究の成果をふまえての支援や実践となることを要望する。今後に向けて応援したいと思っている。

(目良委員)

- ・募集活動も努力されており、教育の方も先生方が力を入れていることが伝わってきた。
- ・「大学の使命と目的」のなかのアドミッションポリシー中に「表現系の素養と積極的な関心」があり、高校生へ伝える大切なメッセージとなっており、他大学とはちがう宝仙の魅力になっていると思う。  
ただ、時代が求めている幼児教育は変化してきており、現在求められている保育者像を高校生へどのように伝えていくのが重要である。
- ・「表現」というのは、こどもの感性を引き出ししていくために技術だけではなく言葉で伝えるコミュニケーション能力も大切である。

(太田学長)

- ・ご指摘の通りであると考えている。

(田苗委員)

- ・私の短大生時代には、教員免許状と保育士資格の両方を取得するのが当たり前であったが、最近が変わってきているようだ。  
どちらか1つだけを取得する学生達は、本人の希望で片方だけになっているのか。それとも、学修を進めているうちに修得単位不足となったのか。または、実習がうまくいかなくて諦めるようになってしまっているのか。

(須永実習委員長)

- ・実習が進んでいくうちに進路が明確になり、片方だけの取得でよいと判断する場合も多いと思う。
- ・ただし、必要科目の単位取得等の状況を含め実習条件にそぐわない学生もいることは確かである。

(田苗委員)

- ・学生達が、どのような意識を持って入学してきているのか。また、そこからどのように方向性が変わってきているのか。意欲が弱くなってきているのか。変化していく過程はどのようなのか。
- ・保育者に育っていくために理論と体験が進んでいくうちに壁にぶつかった学生に対して、受け止めて再チャレンジを促す教育を当然しているのであろうと思っている。
- ・学生が努力をしている姿を認めてあげられるという意味でも少人数教育は大変よいことだと思う。
- ・授業アンケートの結果については、教員によっては様々な受け止め方があるだろうが、し

っかりと受け止め学生の満足度を上げて、教育の質を高めていくことを期待している。

- ・今年4月まで宝仙学園幼稚園長として勤務していたが、大学の教育についてよくわからなかったところが、この自己点検評価書により理解することが出来た。

(目良委員)

- ・補助金の獲得率を上げていくことについてはどのように考えているのか。

(太田学長)

- ・文部科学省や私学共済事業団の基準に合わせながら改善を進めているところである。

(目良委員)

- ・短大時代が長かったことから、卒業生の大半は幼免二種を取得しているであろうが、その人達が一種を取得することへの取り組みを通じて社会への貢献を果たして欲しいと思う。
- ・卒業要件に教職をとるということは入っていないということではよいか。  
教育実習に行くためには履修要件があると思うが、「単位取得チェック表」というのはとてもいい仕組みだと思う。

(田丸委員)

- ・58頁5-1-③の「大学の防災訓練……」の部分は、法人関連(基準5)ではなく基準2(学生)に移すべきであろう。

(小玉事務部長)

- ・学園も地域の広域避難場所となっているが、大学の避難訓練等についてはご指摘の通りであると思う。早速対処したいと思う。

(伊藤委員)

- ・こども教育研究センター「保護者支援プログラム」については、担当課長として石川学部長(センター長)と相談しながら委託事業として行なってきた。
- ・H29年度より中野区では1歳6ヶ月健診を医師会に委託することになったが、医師会では発達支援が必要なこどもの保護者との対応は難しく、こども教育宝仙大学に委託することになった。
- ・1年目は「発達が気になりなこどもたちを理解する」というテーマのもと、中野区に4ヶ所ある「すこやか福祉センター」ごとの実施としたが、一年間実施した結果は大変好評であったため、2019年度も継続することとなった。
- ・2年目である今年度は、「言葉を理解する」「遊びを理解する」のテーマのもと、エリアも2つに分けて実施している。
- ・その他、こども教育研究センターの実績と保護者支援プログラムについての気づき等があったら話して欲しい。

(石川学部長)

- ・今年度はまだ2回の実施であるため、今年度終了後に振り返りを実施したい。
- ・こどもの発達に課題があると、その親ごさんたちは普通の公園や子育て広場とかでは肩身の狭い思いをしているが、こういう場があると母親同士で情報交換も可能になるためとても居心地がいいとの評価をいただいている。

(伊藤委員)

- ・今年度は「ぷちとまと」の学生が、学生アルバイトとしてやってくれているが、発達に課題のあるこどもに対して学生がどのように感じているのか。

(青木キャリアサポート委員長/子ども教育研究センター「ぷちとまと」担当)

- ・学生は、事前に守准教授よりレクチャーを受けて臨んでいる。
- ・「ぷちとまと」は親子のサポートが中心となるが、保護者支援プログラムはこどもとの関わりが中心となるため気づきもあるようだ。

(田苗委員)

- ・「ぷちとまと」では、学生はこどもとの関わりを控えているのか。

(青木委員)

- ・親子の関わりが中心となるため、学生が親子の関わりに割って入るような関わりは控えているが、身体計測の手伝いや手遊びコーナーをするなどの関わりはもっている。

(田苗委員)

- ・保育者になっていくときには、できるだけ様々なタイプのこどもと触れ合うことが重要であり、こどもと向き合い、うまくいったり、いかなかったりの体験の場としての「ぷちとまと」だと思っていたので、今までの認識と違っていることがわかった。

(青木委員)

- ・こどもに対して引き気味というわけではなく、保護者とこどもの関わりを大切にしながら両方と関わっていくことを考えている。

(目良委員)

- ・HOSENWAY プロジェクトの中にSD活動についての記述が少ないように思う。  
事前に「職員」とは教員も含むとの説明を受けたが、「職員」の声を学園が吸い上げてプロジェクトを実現していく過程も記載していくとよいと思う。

(田丸委員)

- ・HOSENWAY の項目には重複したものがあるので整理した方がよいと思う。
- ・整理することにより、何をなすべきかが明確になっていくだろう。
- ・生涯教育、リカレント教育について、保育士キャリアアップ研修を引き受けることにより卒業生への貢献にもなるのではないか。

(石川学部長)

- ・キャリアアップ研修については、東京都の説明会へ参加もしており、カリキュラムも含め検討をしているところである。

(太田学長)

- ・HOSENWAY については、毎年見直していくことにしており、いただいたご意見を参考にしながらより良いものにしていきたい。

(田丸委員)

- ・44 頁「三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用について」では「履修カルテ」は含まれていないのか。

(佐野教務委員長)

- ・履修カルテは作成しており、教員は活用していたが、積極的に学生に開示することは行なっていなかったが、今年度からはより活用している。

(根ヶ山委員長)

- ・この場での発言としてなじまないのかもしれないが、大学の自己点検評価の場であるのであえて発言をさせてもらう。確認になるが、学長は評議員であって理事ではないのか。

(太田学長)

- ・理事である。
- ・去年の資料のため、名前が記載されていない。

(根ヶ山委員長)

- ・宝仙学園寄附行為第7条に、理事は学長、校長、園長の互選による2人以上3人以内であり、必ずしも学長になるわけではないが、学長は理事職にあるべきだと思う。

(太田学長)

- ・実績として、学長は必ず理事となってきた。

(春日総務課長)

- ・任期がずれるため、毎年理事の互選会議が開かれるが、必ず学長は理事となっている。
- ・今年度から、理事の人数が増えたため必ず部門長は理事となる。

(7) 各委員からの提言

(根ヶ山委員長)

- ・これまでの発言の中に提言も含まれていることを確認した。



### Ⅲ 外部評価委員

任期：2018(平成30)年10月1日  
～2020(令和2)年9月30日

○根ヶ山 光一

早稲田大学教授

田丸 豊

筑波大学教授

目良 秋子

白百合女子大学教授

田苗 孝子

前宝仙学園幼稚園長

伊藤 廣昭

中野区教育委員会学校再編・地域連携担当課長

○ は委員長

#### IV 外部評価委員会開催状況

1. 開催日時 令和元年9月25日(水) 午後5時30分～

2. 場 所 こども教育宝仙大学 1号館 音楽演習室

#### 3. 出席者

(1) 評価委員	早稲田大学	教授	根ヶ山	光一
	筑波大学	教授	田丸	豊
	白百合女子大学	教授	目良	秋子
	前宝仙学園幼稚園	園長	田苗	孝子
	中野区教育委員会学校再編・地域連携担当	課長	伊藤	廣昭
(2) 本 学	こども教育宝仙大学	学長	太田	誠一
		学部長	石川	悦子
		教務委員長	佐野	通夫
		学生厚生委員長	宇佐美	かおる
		図書館長	照屋	洋
		実習委員長	須永	美紀
		研究委員長	石原	正仁
		広報・学生募集委員長	捧	公志朗
		入試委員長	林	隆嗣
		キャリアサポート委員長	青木	弥生
		入学センター副センター長	仁科	昭雄
		事務部長	小玉	政広
		大学総務課長	姉川	昌弘
		学校法人宝仙学園 本部事務局総務課長	春日	由美子

#### 4. 進 行

- (1) 太田学長挨拶
- (2) 出席者紹介(石川学部長)
- (3) 委員長選出

外部評価委員全員の推薦により早稲田大学教授の根ヶ山光一氏が選出された。

- (4) 根ヶ山委員長(議長)挨拶
- (5) 自己点検評価書の概要説明
- (6) 質疑応答および意見陳述
- (7) 評価伝達
- (8) 総評(各委員より)
- (9) 学長挨拶